

## 前回会議の報告について

- |                     |      |
|---------------------|------|
| (1) 第1回塩竈市総合教育会議 概要 | …P 1 |
| (2) 不登校について         | …P 2 |
| (3) 家庭の教育環境について     | …P 4 |
| (4) 地域との連携について      | …P 6 |

## 第 1 回塩竈市総合教育会議 概要

1 日 時 平成 27 年 5 月 29 日 (金)  
開会 13 時 00 分 閉会 14 時 25 分

2 会 場 壱番館 3 階共用会議室

3 出席者 塩竈市長 佐藤 昭  
塩竈市教育委員会  
委員長 柴田 仁市郎  
委員長職務代行者 太田 忍  
委員 池野 暢子  
委員 山田 達磨  
教育長 高橋 睦磨

### 4 協議事項

#### 議題 1 塩竈市総合教育会議の運営について

塩竈市総合教育会議運営要綱（案）について検討を行い同意・可決した。

#### 議題 2 塩竈市教育大綱について

塩竈市教育大綱について、家庭教育、学校教育や幼児教育の課題、地域社会との連携等様々な意見交換を行った。

[主な意見] 委員の発言から 3 つのキーワードに意見を集約した。

キーワード	主な意見等
不登校対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校児童生徒数の多さに驚いている。</li> <li>・中一ギャップが不登校の一因。小中一貫教育が不登校対策の手立てになるのでは。</li> <li>・不登校児童生徒の傾向を把握し対策を講じるためにも詳細な分析が必要。</li> </ul>
家庭の教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを育てる世代のお父さん・お母さんへの教育が必要。</li> <li>・家庭は全ての教育の原点。家庭の団らんや子どもに目を向ける時間が必要。</li> </ul>
地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育も子育ても地域全体の課題である。みんなで協力し合える塩竈方式を模索すべき。</li> <li>・浦戸小中学校は地域に支えられている。浦戸はモデルケースになるのでは。</li> <li>・地域のことをよく学び、塩竈の未来を担う人材育成に重点をおくべき。</li> </ul>

## 不登校について

特に市内の中学生の不登校が多い状況であることが認識できた。

全国的にも中一ギャップが不登校の一因と聞いているが、なぜ塩竈市において不登校生徒が多いのか、もう少し傾向等を分析することが必要である。小中一貫教育が不登校対策の一つとして効果があるかどうかなど探りたいものである。

※前回会議委員発言趣旨取りまとめ

### 【不登校の調査（平成24年度における不登校児童生徒の追跡調査の結果分析から）】

平成24年度の市内不登校児童生徒（小学生31名、中学生98名）に関する追跡調査の主な結果は下記のとおりである。

- 1 「不登校状態になり始めた学年は？」という中学生98名の回答では、中1の時期が40.8%、次いで中2の時期が21.4%であり、中3の時期が16.3%、他学年の時期は10%未満という状況であり、中一ギャップの傾向が強いものと推察できる。
- 2 不登校になったきっかけについての設問では、小学生は「本人にかかわる問題」が48.4%、「不安などの情緒的混乱」が32.3%、「親子関係をめぐる問題」が29.0%、中学生は「本人にかかわる問題」が23.5%、「無気力」が22.4%、「いじめ以外の友人関係をめぐる問題」が18.4%、「遊び・非行」が15.3%、「不安などの情緒的混乱」が14.3%、「学業不振」が12.2%である。
- 3 発達障害有（疑いがある場合も含む）：小学生が16.1%、中学生が19.4%
- 4 家族との生活状況（母子家庭または父子家庭）：小学生38.7%、中学生52.0%
- 5 家庭の経済状況（要保護・準要保護）：小学生41.9%、中学生45.9%
- 6 保護者の当該児童生徒へのかかわりについて、「改善しようと働きかける努力をしている」が、小学生74.2%、中学生63.3%である。

### 【塩竈市の取組】

#### 1. 長期欠席者の早期把握と対応

##### 【概要】

学校において毎日、児童生徒の状況を把握しているが、特に一週間連続不登校については教育委員会に報告を義務づけ、素早い対応策の実施を確認している。また、毎月の校長会や教頭会で現状の共有を図り、取組の充実を図っている。

##### 【活動内容】

- ・毎朝の学級担任による出欠確認、及び欠席家庭への連絡と管理職等への報告・連絡等
- ・家庭との連絡や児童生徒の状況に応じて対応方法を早急に検討
- ・一週間連続で不登校児童生徒が出現した時点で、市教育委員会に報告
- ・一か月ごとに、7日以上欠席した児童生徒の状況等について、市教育委員会に報告

#### 2. 学校の取組を支援するための教育条件の整備

##### 【概要】

課題意識の共有と教員の資質の向上を図るために、年度当初に塩竈市内全教員を対

象にした市内全教員参加による研修会を実施し、学校の取組を支援するための教育条件を整備する。また、きめ細やかな指導のための適切な人的措置として児童生徒への指導のための加配の要請を行っている。さらに、不登校に対応する教室や、対応する人的配置について整備するよう、各校へ指導している。

**【活動内容】**

- ・市内の児童生徒の不登校の状況説明
- ・塩竈市の不登校対策の現状
- ・スクールソーシャルワーカー活用の説明
- ・指導員の加配等の申請手続き等

**3. 学校における指導への支援**

**【事業概要】**

不登校状態から学校復帰を果たした事例を「不登校改善事例集」として作成及び配布を行い、改善手法を学ぶモデルとして活用を奨励している。

また、適切な対応の見極めと支援体制づくりとして、指導主事とスクールソーシャルワーカーが市内全ての学校を訪問し、不登校の子どもの個々の原因や課題について協議し、家庭訪問等の取組について助言をしている。

**【スクールソーシャルワーカー委嘱人数】** 2名

**4. 関係機関との連携及び活用**

**【事業概要】**

子どもや保護者に対して心理の専門的なアドバイスを提供する観点から、スクールソーシャルワーカーを配置して家庭への訪問活動を行っている。さらに、青少年相談センターの学校心理士による相談や所員による電話相談の実施、そして「けやき教室」での適応指導など、多くの関係機関と連携しつつ、段階的な登校や学級復帰を図れる体制の充実に努めている。

**【今後の方向性】**

さらに、これら各機関のネットワークづくりと協力体制を強化し、実行ある取組に資するため、「塩竈市不登校対策連絡会議」を設置するなど、不登校児童生徒を一人でも減らし、新たな不登校を生まない取組を推進することとしている。

## 家庭の教育環境について

家庭はすべての教育の出発点であり、子どもの基本的な生活習慣、倫理観、自立心等を身につける基盤になるものである。しかしながら、近年、都市化、少子化、核家族化の進行等子どもを育む家庭の環境が大きく変化している。子どもへの接し方が分からず、子育てに不安や負担を感じる親が増加しているとの指摘もある。

※前回会議委員発言趣旨取りまとめ

### 【現状】

- ・人口の推移では、年少人口（0～14歳人口）と生産年齢人口（15～64歳人口）は減少し、老年人口（65歳以上人口）は増加するものと推計している。
- ・世帯数は横ばいの状況であるが、ひとり親世帯の推移をみると、父子世帯・母子世帯ともに増加している。

〔塩竈市の人口推計及び将来推計〕

（単位：人、％）

区分	H17	H22	H27	H32	H37
総人口	59,287 (100)	56,488 (100)	53,473 (100)	50,441 (100)	47,108 (100)
0～14歳	7,487 (12.6)	6,437 (11.4)	5,494 (10.3)	4,647 (9.2)	3,997 (8.5)
15～64歳	37,857 (63.9)	34,541 (61.1)	30,814 (57.6)	27,827 (55.2)	25,281 (53.7)
65歳以上	13,943 (23.5)	15,510 (27.5)	17,164 (32.1)	17,967 (35.6)	17,830 (37.8)

（出典）日本の地域別将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所）

※（ ）は割合を示している。

〔世帯の推移〕

（単位：世帯）

区分	H17	H22	H27
一般世帯数	20,540 (100)	20,486 (100)	20,363 (100)
うち父子世帯	293 (1.4)	307 (1.5)	366 (1.8)
うち母子世帯	1,700 (8.3)	1,880 (9.2)	2,032 (10.0)

（出典）国勢調査

※（ ）は割合を示している。

※H27の母子・父子世帯割合（11.8％）は県内市町村で一番高い

## 【塩竈市の取組事例】

※主要な施策の成果に関する説明書（平成25年度）

### 1. 母子保健教育事業

#### (1) パパママセミナーの開催

○12回開催（1コース3回で実施） ○参加実数：47人

区分	母子健康手帳交付者数 (妊娠届出者数)	妊婦面接 (※)
平成24年度	339人	373人
平成25年度	330人	373人

※妊婦面接数は、転入者で母子健康手帳別冊交付者を含む

#### (2) 育児相談会の開催

○12回開催 ○参加延べ数：82組

【対象】 4か月未満の乳児とその母親

【内容】 身長・体重測定／母乳・離乳食相談／ベビーマッサージ／子どもとの接し方 等

相談内容の内訳（延べ件数）							
育て方	赤ちゃんの身体	発育	母自身について	保育環境	家族関係	その他	合計
30	35	29	5	4	1	12	116

#### (3) 7か月児健康相談の実施

【対象】 7か月児とその母親

【内容】 身長・体重測定／離乳食指導／歯科指導／生活指導 等

対象者数	来所者数	割合
327人	327人	100.0%

#### (4) 歯っぴー教室（妊婦歯科健康診査）の実施

○3回開催（6月、12月、2月） ○参加者数：22人

【対象】 妊婦

【内容】 歯科指導（染め出し他）／歯科健診／歯科保健講話

### 2. 妊産婦・新生児訪問指導事業

（単位：人）

区分	出生数	乳児全戸訪問			養育支援	
		新生児 訪問数	乳児 訪問数	EPDS 実施数	ホームヘルプ	家庭訪問
平成24年度	341	324	10	324	131	58
平成25年度	311	294	17	295	239	52
EPDS	産後うつ病の早期発見・育児不安に対応するため、「エジンバラ産後うつ質問紙票（EPDS）」を活用した出産後の訪問指導を実施し、個々に応じた相談・支援を行う。					
乳児全戸訪問	「こんにちは赤ちゃん事業」として、生後4か月を迎えるまでの乳児のいるすべての家庭訪問を行い、情報提供や相談・助言等を行っている。（平成19年10月から実施）					

### 3. 中学生と赤ちゃんふれあい交流事業

（単位：人、%）

区分	実施校数	実施校名	参加人数	満足度
平成24年度	4校	第一中・第二中・第三中・玉川中	471	83.2
平成25年度	4校	第一中・第二中・第三中・玉川中	446	87.4
【目的】	中学3年生を対象に、体験学習と医師講演の2本立てで実施し、赤ちゃんとのふれあいを通して、自分の命や性、自分自身を大切にすることを学び、自己決定力を身につけることを目的とする。			
【実施日】	第三中学校…平成25年7月4、5日（体験学習）／7月10日（講演）			
	玉川中学校…平成25年10月31、11月1日（体験学習）／11月8日（講演）			
	第一中学校…平成25年9月3、4日（体験学習）／8月29日（講演）			
	第二中学校…平成25年7月2、3日（体験学習）／7月11日（講演）			

## 【今後の方向性】

□家庭の子育てや親になるための「学び」と「育ち」を社会全体で支える仕組みづくりが一層求められている。

## 地域との連携について

地域社会は、集団のルール、社会性などを育む場として大きな役割を果たしてきたが、都市化、核家族化の進行などより地域の教育力の低下が進んでいる。地域社会を構成する各関係者（学校、家庭、町内会、NPO等）が協働し、子どもたちを育む仕組みを再構築することが必要である。

※前回会議委員発首趣旨取りまとめ

### 【現状】

- ・小学校では地域行事に積極的に参加している児童の割合は全国を上回っているが、中学校になると、全国を下回る結果となっている。

〔地域の行事に積極的に参加している児童（小学生）の割合〕（単位：％）

	H22	H23	H24	H25	H26
塩竈市	65.8	—	75.2	70.6	75.3
宮城県	74.4	—	73.2	73.1	76.0
全国	61.6	—	63.3	63.9	68.0

（出典）全国学力・学習状況調査（文部科学省）※H23は震災の影響で未実施。

〔地域の行事に積極的に参加している生徒（中学生）の割合〕（単位：％）

	H22	H23	H24	H25	H26
塩竈市	31.6	—	32.5	36.0	33.8
宮城県	39.5	—	37.9	41.3	44.2
全国	34.3	—	36.5	41.6	43.5

（出典）全国学力・学習状況調査（文部科学省）※H23は震災の影響で未実施。

### 【塩竈市の取組】

#### 1. 地域学校安全指導員（スクールガード・リーダー）配置事業

##### 【事業概要】

地域のボランティアを活用することによって、安全で安心できる学校の体制を確立するために、防犯の専門家や警察OB等をスクールガード・リーダーとして認定し、学校の巡回指導や地域安全サポーターの指導育成等を行う。

**【活動内容】**

- ・区域内における登下校時の交通安全指導
- ・区域内の巡視及び定期的な巡回指導
- ・不審者対応や事故発生時の緊急対応及び防犯対策に関わる学校への助言
- ・地域や関係機関との連携による学校安全、防犯対策の推進
- ・各小学校で活動する地域安全サポーターの指導育成

**【委嘱人数】** 2名

**【活動時間】** 1週に2日以内、1日単位で4時間程度を基本とする。

**2. 子ども安全地域サポーター事業****【事業概要】**

児童の安全を確保するため保護者や地域住民からの不審者情報が素早く提供されるシステムを確立し、情報提供があった場合には、迅速に対応することを目的とする。

**【サポーターをお願いする方々】**

- ・児童の保護者及び祖父母の方
- ・地域にお住まいの方

**【活動内容】**

- ・声かけ（あいさつ運動）  
児童の登・下校時間帯に合わせ、巡視を兼ねた声かけ運動
- ・土日、祝日、長期休業中の巡視を兼ねた声かけ運動
- ・非常時の場合の巡視を兼ねた声かけ活動

**【その他】**

- ・サポーターには、市で保険をかけ活動中の事故について最低限の保障をする。
- ・声かけ運動（巡視活動）をする場合は、腕章を付けて活動する。

**3. 地域と連携した中学校運動部活動推進事業****【事業概要】**

中学校の部活動において、未経験指導教員の指導力向上等を支援するため、地域社会で活躍する外部指導者の登録制度を活用しながら派遣要請に対応する。

**【その他】**

- ・外部指導者と学校との共通理解を図ることを目的に「中学校運動部活動ガイドライン」を策定する。



#### 4. 小中学校総合的な学習の時間推進事業

##### 【事業概要】

各学校において、「総合的な学習の時間」を効果的に実践するため、地域・環境・国際理解等のテーマに基づき、社会体験や自然体験などの体験学習を通して、「塩竈」の歴史や文化に触れあう機会を創出する。

##### 【事業内容（平成26年度実績）】

学校名	内容
第一小学校	国際交流活動、塩竈環境探検隊、ふるさとPR隊 等
第二小学校	「環境問題に取り組もう」、「塩竈じまん」等
第三小学校	手作りかまぼこ、1/2成人式、防災教育等
月見ヶ丘小学校	「塩竈の産業に触れよう」、「ふるさと塩竈再発見」等
杉の入小学校	地域の産業・文化、1/2成人式等
玉川小学校	「優しい街玉川」、「伝統の継承、先人の思い」等
第一中学校	塩竈の文化・伝統、環境、産業の学習等
第二中学校	地域学習、立志発表会、職場体験等
第三中学校	地域人材による体験学習、赤ちゃんふれあい体験等
玉川小学校	「塩竈再発見」、職場体験、立志式等
浦戸小中学校	演劇活動、浦戸合宿、牡蠣むき体験等

※地域の人材やボランティアが活躍している。

##### 【今後の方向性】

□地域の人材等これまで蓄積されてきた教育資源の活用など、学校・家庭・地域の連携を進めながら、地域の教育力を向上させることが求められている。